



## 観光の視点で

### 「居合」をPR

村山で意見交換

村山市出身の剣豪・林崎甚助重信が始祖とされる「居合」について、観光の視点からPRする方法を考えるワークショップが16日、村山市役所で開かれ、参加者が居合道の体験を含

居合道の体験を含めた観光商品の造成に向けて関係者が意見を交わしたワークショップ

村山市役所

めた観光商品の造成に向けて意見を交わした。

市観光物産協会（平良悦会長）が主催し、市や地元

関係者ら約20人が参加した。観光事業企画などを手掛ける「アイサイト」（山形市）の馬場誠社長がファシリテーター（進行役）を務め、「村山市ならではのものを売りにして、観光に

ついて新たな波をつくっていく必要があるのではないかと指摘。居合を観光に生かしていく上での可能性を描き、共有することが重

要だとした。

参加者は「5年後に実現したい状態」などについて意見を出し合い、「（重信を祭った）林崎居合神社の前で旅行者が居合道の体験をできるようにしたい」「多言語対応など、海外からの観光客を受け入れられる態勢や仕組みがあれば」などと語った。

同協会は今後も意見交換を重ね、2017年度に居合道体験の着地型観光商品開発に本格的に取り組んでいく。